

先輩から学ぶキャリア教育「社会人座談会」

校長 神戸秀巳

平成 27 年に、秦野高校と PTA が共催して、初の「社会人座談会」を実施しました。これは、社会で活躍する秦野高校の先輩から直接「職業」や「働く意義」などを学ぶキャリア教育の役割を担うだけでなく、後輩である秦高生へ助言をいただき、秦高生を飛び跳ねさせるきっかけとしたいと企画したものです。「できることは何でもやる」「調子に乗っている」「動きの見える」を学校経営の方針とする秦野高校が創立 90 周年（草創 130 年）を機に、『広陵人材バンク』を活用して新たに創り出す伝統の一つとなります。

初回の昨年、PTA 広報紙『ひろはた』に掲載するだけでなく、秦野高校ホームページでも一部を紹介しましたが、特に卒業生の中で話題となったようです。後日参加者たちから、『多くの知り合いに声をかけられた』との報告がありました。

座談会の参加者を 30 代から 40 代の卒業生に限定して人材の掘り起こしを図り、平成 26 年 10 月に立ち上げた『広陵人材バンク』の周知と拡充を意図し、秦野高校の先輩である卒業生と後輩である生徒間のつながりを実感してもらうことで、参加者には母校「秦野高校」への「想い」を強めてもらい、また秦野高校がより「前のめり」となる推進力にしたいとのねらいもあります。

今年も 8 月 27 日（土）の午後に、5 名の卒業生に集まってもらい、PTA 広報委員会の司会で、「社会人座談会」が進められました。



参加者 5 名の職業

- 保険会社 事務
- 航空会社 整備(無線管理)
- コンピュータ 開発(起業)
- 小学校教諭(教育委員会)
- 看護師(知的障がい施設)

※手前は PTA 広報委員長

会場は新「ICT 利活用教室」（今年夏に整備、9 月使用開始）

座談会の様子については PTA 広報紙『ひろはた』（10 月発行）に掲載されます。

【仕事に関して】 ※以下の 3 項目について、抜粋のうえ、一部を編集しています

◆ A さん

試験に受からないと看護師になれないので、学校に入るための勉強はもちろんしましたが、学校に入ってから国家試験に向かっての勉強をやってました。関わっている人から「ありがとう」とか「助かったよ」と言われるのがやっぱり役に立って良かったっていうところ。嬉しいと思いますね。人の最期に立ち会う機会もけっこう多くて、この勉強を続

けていても病気の人を助けられないじゃんて思ったんですけど、医療の看護って無力なんだけど、だからこそ、自分が関われる最後の最後までその人、病気ではなくその人自身に看護していけばいいんだってふうに思えたところで、この仕事やりがいがあるんだなあと思ひ、今まで続けてこられたのだと思っています。

◆Bさん

この仕事に絶対になりたいなと思ったのは、教育実習ですね。実際に子どもを目の前にしてすごい楽しい仕事だなあって。それが決め手となって、教員をめざそうと思いました。やりがいは本当に尽きない仕事だと思います。小学校は6年間というスパンなんで、すごい長いんですよ。同じことやらせようとしても、1年生にやらせるやり方と6年生にやらせるやり方は違います。そこの工夫がすごく面白いです。給食の指導、集団での過ごし方、本当に生活全般に関わってくる。教科担任ではなく学級担任で、ずっと子どもたちというわけですから。本当に責任というか、やりがいがあると思っています。本当に飽きない仕事です。

◆Cさん

大学1年の時に、大学の先輩の紹介で、アルバイトとして某教育会社の教育アプリケーションを作ったのが仕事のきっかけです。就職活動をせずに医療法人のコンピュータのメンテナンス業務が始まりで、ベンチャーや大手に転職した後、独立。ITからずっと外れずにやっているのは、好きだから。努力した事と言えば、もともと全然人前で話すことができなかったのですが、人前で話さなければいけなくなって、どうすれば喋れるのかを考えました。器用貧乏なところがあって飽きっぽい性格なので、ITのインストラクターも、教えるだけではなくて新しいITの技術を事前に自分が体験して、教育専門ではなく知識を吸収しながらアウトプットすることができたらと、この10年間頑張っているところです。

◆Dさん

秦高に入った時から、将来は飛行機の仕事に就きたいな、とっていました。修学旅行の時に、客室乗務員の方に聞いたところ、皆さん大学を卒業してから就職したと言っていたので、大学に進学しました。結果論ですが、今の仕事に就けました。恥ずかしがり屋なのですが、希望する職業に就くために、迷ったら、とにかくカラを破ってインタビューなど自分から聞いてみる努力をしました。高校時代は、社会に出た時の縮小版。お客さんとの対応とか、ミーティングとか、あと話の進め方とか、皆で協力するとか、全て高校時代で培ったことかもしれません。仕事のやりがいについては、いろいろな方の移動手段で、人生の一部になっているので、人生を繋げているところに貢献できているところです。

◆Eさん

私が現在従事しているのは、生命保険に加入した際に告知いただいた医的な情報をコード化する仕事です。人の人生がかかっているととても重要な仕事です。一般事務は、パソコンに向かって地味に言われるまま仕事をする、というイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが。実際は次工程の担当者のことや周りのメンバーのことなど、様々なことを考えて仕事をする必要があります。意見を求められることもあります。自分の行動でスムーズに業務が進み、時間通りに仕事が終わると達成感を感じます。また、私自身新しいことを知るのが好きなタイプです。私にできることは1件1件の仕事を確実に行うことだ、と言ひ聞かせて業務に励んでいます。

【秦高時代の思い出について】

◆Fさん

秦野高校の生徒って普段はすごく真面目なんですけど、イベントになるとものすごい迫力があって、体育祭とか文化祭とかは「何でこんなにエネルギーがあるんだろう」みたいな。すごく準備もやって、本番もやって。いただいた資料にある「調子に乗っている秦野高校」というのが、私のいた時と変わってないなあというのがすごくありますね。

◆Gさん

秦野高校の思い出というと、部活動です。陸上競技部に所属してまして、長距離と短距離をやっていました。久保寺副校長が当時 30 代の頃で。修学旅行で北海道に行ったんですけど、洞爺湖の周りを 20km 走ったこととか、札幌の街並みをずっと走ったという記憶が一番残っています。朝練は朝練で時間をとってやりました。

◆Hさん

年に定期演奏会と、夏のコンクールというのが大きい行事で、1年2年は行けなくて、涙を流す先輩の姿を見て、3年で、我々が最上級生の時に県大会に行けることになって、すごく感動したという思い出があります。だいたい夏で終わりですかね。で、受験が終わった後に定期演奏会に出る。修学旅行は北海道に行ったんですけど、寝台列車で行った記憶がありますね。飛行機ではなくて。あと、思い出といえば男クラですね。

◆Iさん

私も陸上競技部だったので、マネージャーだったんですけど、360 何日部活だったので、高校の思い出という部活になります。部活で競技場もいろいろと行きましたし、合宿もあったり、駅伝で関東大会に行った年だったので、茨木の方まで泊まりがけで行って。部活漬けでしたが、とっても充実していて、熱中して何かできたというのは、すごく、今思えば良い3年間だったな、と思っています。

◆Jさん

思い出は北海道修学旅行です。4泊5日で行きも帰りも飛行機で、高校生ながら客室乗務員のお姉さんに断ってドアの写真を撮らせてもらったりしました。そのときから飛行機には興味があったので。いろいろ「どうしたらこの仕事になれるんですか」と聞いてみたりしました。最終日の夜にキャンプファイヤーがあり、普段は内に秘めている真面目な秦高生が、そういう時はスイッチが入ってドカンと。ちゃんと秩序があるラインでオンオフがはっきりしている、そういうところが秦高生はすごいなと思いました。

【後輩である秦高生へのエール】

◆Kさん

たぶん、高校生ってこれから何をしようかということをもすごく考えて迷ってる時期だと思うんですが、気になることがあったらどんなことでもやってみて、ダメかもしれないけど、たくさんの方にチャレンジしてもらいたい。

やってみなければ始まらないですし、やってみてもダメかもしれないこともあるんで、やってみるのも1つにしぼるんじゃなくて、保険じゃないですけど、たくさんの方にチャレンジした方がその本当にやりたかったことがダメだった時に立ち直りが早くなるんじゃないかなあ。いろいろ失敗してきて、すごく感じています。

◆Lさん

楽しむときには、もう思いっきり楽しんで、しっかり締めるところは締めて、そのオンとオフはしっかりやっていってほしいなと思います。それが、きっと社会に出た時にうまく機能すると思うんで。ボランティアだとかいろいろなことを通じて何かを感じたりとか、オンとオフをしっかり学べていったらいいんじゃないかなあとと思います。

◆Mさん

今思えば、高校生の時には時間があるので、ボランティアや職業体験をしたり、「自分は何かしたいのか」と将来に向けていろいろ考えたりすると、ゆくゆくはそれが自分の糧になるので、時間を惜しまずにやってみてください。そして勉強も頑張ってください。

◆Nさん

高校時代、成績はあまり良くなかったですが、そういう感じでも大学とかにも受かれますし、やればできるよって言いたいですね。とにかくあきらめずに、前向きに頑張ってください。

今でもある会社の仕事をやってると秦高の後輩に会うんですよ。去年今年で5、6人くらい。活躍している様子が見えますし、みなさんも活躍できますよ。

◆Oさん

時間の使い方として、実体験や人との実際に関わりで、人と自分が磨かれることも大事にしてほしいですね。そういう経験から、自分が磨かれるということもあるんですが、自分を磨くというのは、自分を完璧な人間にしようということではなく、人との関わりを通して自分の欠点を知るといのがすごく大事だと思います。その欠点を知ったうえで、向上心を持って前向きな気持ちになれるし、欠点をすべて直そうとするのではなく、それを受け入れようとするのも大事なことです。そういうことにつながるので、経験をすることが大事です。

<参考>【昨年の参加者からのアドバイス】 ※一部を編集しています

○朝ちょっと新聞を開いて読んだり、ニュースをみるだけでも、関心事が広がるかなと。

○部活の先輩でも、卒業生でもいいです。話をしたり、聞いたりすることで、「あ、そういう道もあるね。そういう考え方もあるね。」と様々なヒントがもらえるとと思います。

○積極的に情報を得て、自分の可能性を磨くことが大事だと思います。

○高校時代は自分の好きなことをやって、やりたいことや学びたいことを見つける準備をしてほしいです。

○社会人として仕事をする時は、生身の人間との関わりを避けては通れませんので、“学生ではなくなる”時のことを意識してみることをお勧めします。

○大学の学園祭に行ってみて、何か将来に対するイメージが作れたら良いかなと思います。とてもおすすめです。いろんなアンテナをはっておいたほうがいいですよ。

○単に覚えるだけじゃなくて、「なぜこういう結論になったか？」という疑問を持って、理由のところまで考えられるようになると、すごくいい勉強ができるかなと思います。

○何か一つのを極めた人だとか、(一見専門外の)物理や化学や建築や法律の知識を持っている方だとか、実際にはそういうものを持った方が求められる仕事だと思います。

PTA 広報紙『ひろはた』では、これらの他に、「自己紹介」「所属部活動」「高校時代にやっておいた方がよいこと」「仕事を決めた時期と理由」「仕事のやりがい」などを詳しく紹介します。10月の発行を楽しみにお待ちしております。

※今回も、PTA広報委員会の皆様に、写真の提供と座談会のテープ起こし原稿の提供をいただきました。これらがなければ、今回の記事を作成することができませんでした。心より感謝いたします。(神戸)

30代または40代の卒業生の皆さんへ

平成29年も3回目となる「社会人座談会」を企画いたします。ぜひ母校「秦野高校」のためにご協力をお願いいたします。参加をお待ちしています。予約を受け付けます。



卒業生の皆さんは、秦野高校にとって、かけがえのない「財産」です。ご協力をいただきまして、心より感謝申しあげます。今後ともよろしく願いいたします。

平成28年9月